

26年産米の生産数量目標 4割近く減反へ

鶴岡市農業振興協議会(会長・榎本政規市長)の臨時総会が5日、グラントエル・サンで開かれ、平成26年産米の生産調整の配分を決めました。

24年産米から設定した配分方法に基づき、26年産米の全国の生産数量目標は前年比26%

鶴岡市の面積換算は442鈔減の9935鈔となっています。

H25	H26	増減
⑦	⑧	⑨=⑧-⑦
65.6	62.9	-2.7
67.8	64.3	-3.5
65.0	62.3	-2.7
64.4	62.0	-2.4
64.6	62.0	-2.6
59.1	58.3	-0.8
65.5	62.8	-2.7

24年産米から適用した配分方法は、(1)均等配分について、平成28年産米まで段階的に作付率を全市一律とする。

平成26年産米に係わる地域別生産数量目標及び面積換算値

	配分基準単収(kg/10a)		生産数量目標(トン)			面積換算値(ha)		
	H25	H26	H25	H26	増減	H25	H26	増減
	A	B	①	②	③=②-①	④=①/A	⑤=②/B	⑥=⑤-④
鶴岡	602	601	23,964	22,842	-1,122	3,981	3,801	-180
藤島	608	607	14,001	13,295	-706	2,303	2,190	-113
羽黒	574	573	10,254	9,832	-422	1,786	1,716	-70
櫛引	591	589	6,787	6,505	-282	1,148	1,104	-44
朝日	552	551	3,228	3,090	-138	585	561	-24
温海	512	510	1,935	1,907	-28	378	374	-4
合計等	592	591	60,169	57,471	-2,698	10,181	9,746	-435

※本表は、慣行栽培を基準に作成しているものであり、減収カウント面積を含みません。
※作付率は、均等配分、傾斜配分を合算した率となります。
※県から示された換算面積9,935haと本表の換算面積の合計9,746haの差189haが減収カウント面積相当分となります。

水稲作付率の調整状況(参考値) 2014.2.5市農業振興協議会

	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	全市
H23	65.5	68.6	64.4	63.5	64.1	55.4	65.3
H24	65.2	67.9	64.5	63.8	64.0	57.1	65.1
H25	65.6	67.8	65.0	64.4	64.6	59.1	65.5
H26	62.9	64.3	62.3	62.0	62.0	58.3	62.8
H27	62.7	64.0	62.6	62.4	61.9	60.0	62.8
H28	62.7	63.4	62.8	62.7	62.2	61.8	62.8

※1. 本表は、均等配分に係る作付率に傾斜配分を加味した作付率である。
※2. 現時点での試算値であり、将来の県からの配分状況等により数値は変動す。

大規模加算 2012.01.31鶴岡市農業振興協議会

区分	平野部	中山間部	加算割合(%)				
			H24	H25	H26	H27	H28
区分A	7~10ha	-	1	2	3	3	3
区分B	10~15ha	4~7ha	2	4	6	6	6
区分C	15~20ha	7~10ha	3	6	9	9	9
区分D	20ha~	10ha~	4	8	12	12	12
環境加算							
加算割合(%)			1	2	3	5	5

①団地加算が10鈔あたり5000円から1万円です

大豆で交付金を最大見積もると、水田活用3万5000円+輪作加算1万円+排水加算5000円+団地加算1万5000円+大区画団地加算2万円+営農継続支払2万円の合計10万5000円となり、前年度7万5000円と比べ3万円増額になります。

さらに10鈔150kgの収量では、数量払を含めると交付金総額は最大で12万2715円となります。

産地交付金

転作作物への助成では産地交付金を見直し、①基本助成を10鈔あたり20000円引き下げ、1万円から8000円に、②同(中山間)も2万円から1万8000円にし、③振興作物助成を2000円増額して1万2000円にします。

直接支払交付金

麦、大豆についてはこの他に水田活用の直接支払交付金(3万5千円)と畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)の面積払(営農継続支払)2万円と数量払があります。27年度からはゲタ対策は認定農業者や集落営農に限定されます。

一方、新設されるのが重点作物助成で、①そばが10鈔あたり2万円、②枝豆(25鈔以上)が3万円、③ねぎ(10鈔以上)・軟白ネギが4万5000円です

5000円に、②大区画化団地加算が新設され2万円に、③輪作加算は大豆に限定され1万円、④そばの排水対策加算は1万円から1万5000円になり、大豆と枝豆・ねぎ等にも5000円が拡大されます。備蓄米助成の見直しでは25年度10鈔あたり5450円(単価調整後)が7500円となります(単価調整による3000円までの減額あり)。

加工用米・飼料用米等助成を新設し、10鈔あたり1万2000円です。

東栄地区町内会の3役合同研修会 「総合交付金」や

災害復旧、除雪路線など

東栄地区町内会の3役合同研修会が8日、東栄公民館で開かれ、藤島地域選出の議員4人が出席し、「総合交付金」をテーマに話し合いました。

加藤鉦一議員は、「市町村合併により縮小してきた旧町村の行政力を補うものとして、住民自治組織の立ち上げや町内会の活動が要請され、総合交付金はそのための支出となるもの」と述べ、合併後の

住民自治のあり方を追求し、地域活動センターを支える職員の待遇について改善を求めていくことを話しました。

その後8月20日の大雨で路肩崩壊等があり、通行に危険なことから全車通行止とした。しかし、月山14団地の耕作者がいることから、仮復旧工事を行い、9月1日から軽自動車のみ通行可能とした。

テーマの他に議員に対する質問では、昨年7月の大雨で月山14団地の耕作者が道路の通行止で困っている問題や、樫地内の除雪路線の要望が出され、対策を求めていくとしました。

月山14団地につなが

なお、平成26年度に本復旧工事を行う予定とのことです。

除雪路線の要望

樫町内会の除雪路線要望では、東部建設事務室は「集落間をつなぐ市道樫3号線については、幅員も狭く吹き溜まりも発生しやすいという状況は把握しており、対策として現在、町内会公園に仮設式防雪柵も設置している。

北側へ防雪柵を延伸することも含め、来年度に向け検討していきます」としています。

藤沢周平没後17年 寒梅忌

―作品の魅力・優しさの底流―

―「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

1月26日は藤沢周平第15回寒梅忌であった。26日は周平の命日と同じ日曜日であったということもあったのか、400人余りのファンが県内外から集まったという。しんぶん赤旗はこれまで、地元

の周平研究者松田静子さんに依頼していたが、今回は記者を派遣し取材した。その記者は、周平に「おれの一族から

も共産黨員が出たか」と言われしめ、周平宅にしばしば訪れた澤田勝男さんである。

澤田さんとは、10年ほど前、共産党文化後援会で招き、周平の講演をいただいた以来、黒川能取材案内などで厚誼を結んできた。前夜に有志数人と歓談の夕べを楽しんだ。

しんぶん赤旗2月3日付文化・学問欄「作

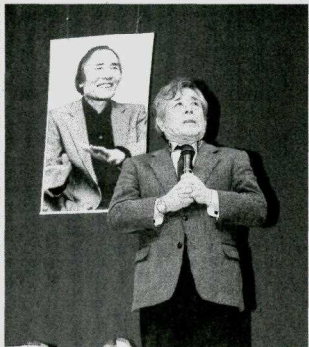
断面

藤沢周平没後17年 寒梅忌

作品の魅力・優しさの底流

作家・藤沢周平をしのぶ「寒梅忌」も節目の15回目。学校教師時代の藤沢の教えを継いだ。澤田さん(88)が、(1997年没)になり、命日の1月26日に藤沢の郷里・山形県鶴岡市で開催された集いには、高知、京都、東京、大泉の会、秋田、福島、宮城や山形県内各地から400人余りのファンが集り、ありし日を追想。元NHKアナウンサー松平定知さんの講演と朗読が会場を魅了しました。

追悼式の後、第一部では、主催者の鶴岡藤沢周平(澤田)が「エッセイのため



記念講演をする松田定知さん(鶴岡市中央公民館)

第二部では松平定知さんが「私の藤沢周平さん」と題して講演しました。宿直にしたことや、作中の思案をたまたま手にした週刊誌「週刊新潮」の文学部に掲載された藤沢さんの「初稿」を、一生懸命に読んでいたこと、敬愛を込めて「おれ」と呼んでいたこと、その視線が共感をよんでいること、語りかけたこと、藤沢の短編集「橋のたもと」の中から「約束」を推薦して朗読、会場の涙を誘いました。

珍しく雪の少ない大寒の鶴岡でしたが、この日、雨が夕方には雪に変わり、そのおと夜も雪に降りつづき、翌朝は地面も庭木も雪の上も残らず雪に覆われていました。(澤田勝雄)

品の魅力・優しさの底流」の題である。教え子で鶴岡周平文学愛好会代表萬年慶一さんが、「震災や原発事故、被災地、地方は置き去りにされている昨今、『人の痛みを知る』ことにこだわり通した藤沢さんの作品が読み継がれるように」と主催者あいさつ、元NHKアナウンサーの松平定知さんが「私の藤沢周平さん」と題して、「癒しの文学ではない。身分や金銭に関係なく、一生



大阪市長のわがまま

こんなわがままが許されるのか。自分の思いつきで市の財政から6億円ほどを使うことになるというのだ。

▼そんな金があるならお年寄りの施設なり保育園をつくるのに使ったらどんなに喜ばれるかと思うものを、ただか自分が夢想している都構想がどれだけ支持されているかを、試すためだというのだ。

一種のクーデターだぞ。小泉の郵政選挙をマネしたな。コイツ。

▼何かと目立ちがり屋の大阪市長が、市長を辞めて市長選に出るといふのだ。市長の仕事は市民の命と財産を守る事なんだぞ。ナニを遊んでいるんだ。マジメにヤレーと言いたいぞ。

▼何かの選挙がある度に市長の仕事はない。チノケで走り回つてると批判されてきたんだ

懸命生きる人にやさしく、敬意を払う。その視線が共感をよんでいく」と記念講演したという。

ちなみに私は、周平の「底流」には3つの「哲学」があると考えている。タテの倫理からヨコの倫理へ解放される人間を描く「哲学」、政治を人間的に捉える「哲学」、物事を重層的に見る「哲学」である。

が、ヒマだから余計なことを考えているのか。▼第3勢力とマスコミに作られた人気である時は大きかったけれど自民の補完勢力と分かれてからは、小さくなったじゃないですか。維新は選挙でオチたら維新の代表を止める、などとオドシみたいなのを言ってるが、それは大阪市民とは関係ないことですヨ。

▼また市長になっても市議会の勢力範囲が変わらないんだからサ、都になれるわけがないんだし、先に行われた隣の市長選挙で結着ついたら一般的な言われていることですよ。

▼だから無駄な金と時間を使い、市政の空白をつくるだけだ。市の私物化というもので許されることではないぞ。

▼しかし、1人相撲で終わるんじゃないの。(石川)